

高齢社会対策説明

小林 洋子

内閣府高齢社会対策担当参事官

只今ご紹介いただきました、内閣府の参事官をしております小林でございます。本日はお暑い中、高齢社会フォーラムにご参加いただきまして、ありがとうございます。

私からは高齢社会対策の現状と課題について、「高齢社会白書」に沿って説明させていただきたいと思っております。

※資料『高齢社会対策の現状と課題～平成23年版高齢社会白書より～』



第1章 高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

<高齢化の現状>

人口に占める65歳以上の割合は現在、23.1%で年々、上昇しています。総人口は減少時代に入っているのですが、平成21年から平成22年は若干増加しており、増加の大部分は65歳以上となっています。

高齢化の状況

高齢化の現状

平成23年版高齢社会白書(概要)のページ番号⇒【p.2】

- 2010年10月時点で、総人口は1億2,806万人で、対前年比で微増
- 65歳以上の高齢化率は23.1%、75歳以上は11.2%

単位: 万人(人口)、%(構成比)

	平成22年10月1日			平成21年10月1日		
	総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,806 (性比) 94.9	6,236	12,751* (性比) 95.0	6,213	6,538
	高齢者人口(65歳以上)	2,958 (性比) 74.7	1,264	2,901 (性比) 74.7	1,240	1,661
	65～74歳人口(前期高齢者)	1,528 (性比) 89.0	720	1,530 (性比) 89.0	720	809
	75歳以上人口(後期高齢者)	1,430 (性比) 61.5	545	1,371 (性比) 61.0	520	852
	生産年齢人口(15～64歳)	8,152 (性比) 101.3	4,102	8,149 (性比) 101.3	4,101	4,048
年少人口(0～14歳)	1,696 (性比) 105.2	869	1,701 (性比) 105.1	872	829	
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	23.1	20.3	22.7	20.0	25.4
	65～74歳人口	11.9	11.5	12.0	11.6	12.4
	75歳以上人口	11.2	8.7	10.8	8.4	13.0
	生産年齢人口	63.7	65.8	63.9	66.0	61.9
年少人口	13.2	13.9	13.3	14.0	12.7	

資料: 総務省「人口推計」(各年10月1日現在)

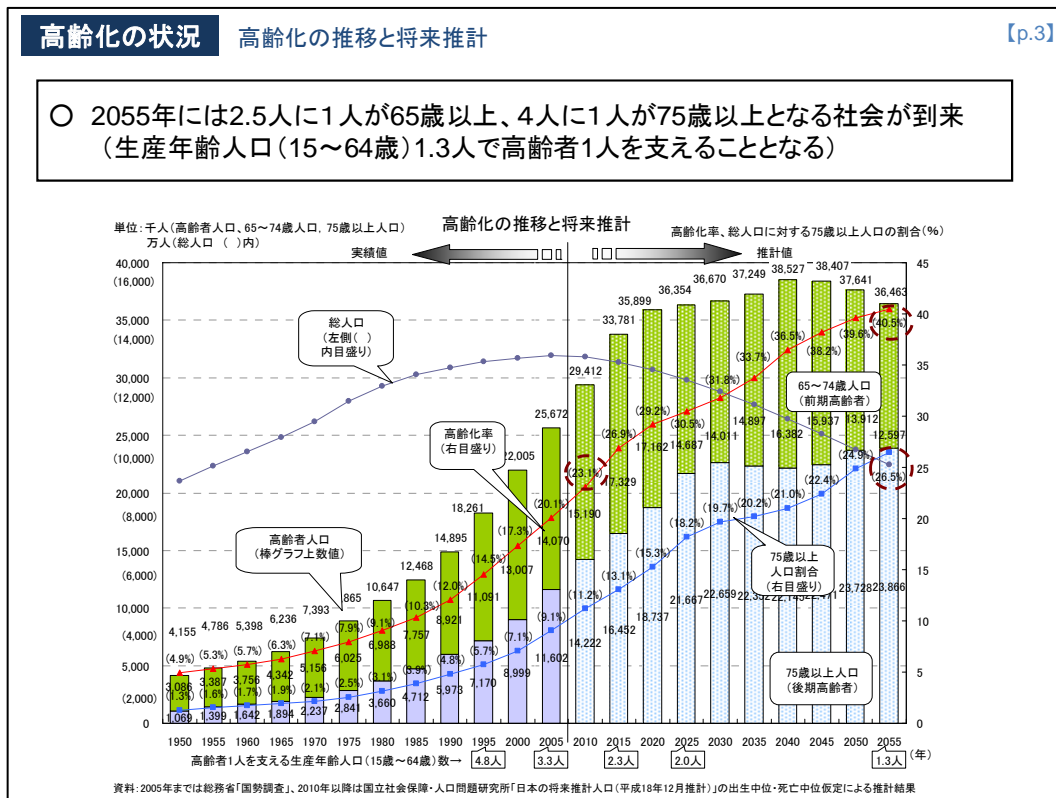
(注1)平成21年は「平成17年国勢調査」、平成22年は「平成22年国勢調査人口速報集計」による人口を基準としている。

(注2)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

*平成22年国勢調査人口速報集計結果を基に選及的に補正した暫定値は12,803(万人)

<高齢化の推移と将来推計>

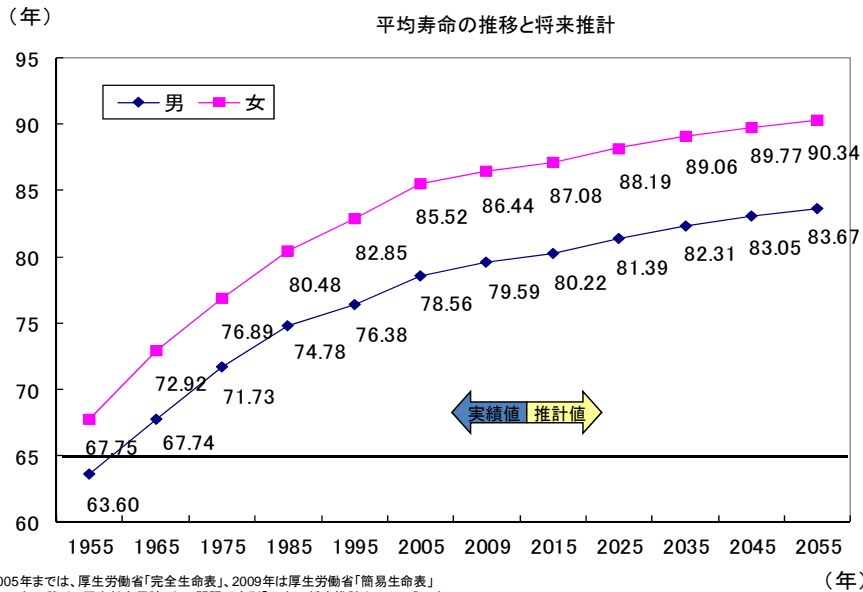
2055年には、総人口に占める65歳以上の割合が4割を超えることが予想されます。2.5人に1人が2055年には65歳以上になるということです。75歳以上も4人に1人という数字になっていくことが予想されています。



<平均寿命の推移>

先ほど樋口先生から人生100年時代というお話がありましたが、厚生労働省「簡易生命表」によると、2009年においては、平均寿命は男性が79.59歳、女性が86.44歳になっています。2055年の推計では女性は90歳を超えています。これは平均値が90歳を超えるので、まさに100歳の人でも元気えられる社会になると思われます。

- 平均寿命(2009年)は男性79.59年、女性86.44年
- 2055年には女性の平均寿命が90年を超える見通し



資料：2005年までは、厚生労働省「完全生命表」、2009年は厚生労働省「簡易生命表」
 2015年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

< 高齢化率の国際比較 >

世界と比した日本の高齢化率の状況です。左側が欧米、右側がアジアと比したものです。日本は世界のどの国も経験したことの無い高齢社会となっており、お手本がない状況です。これからさらに高齢化率が高くなっていきますが、未曾有の事態であり、手探りで進んでいくしかないと考えております。

- 我が国は世界のどの国も経験したことの無い高齢社会を迎えている

